

第24回

技術研究発表会のご案内

開催の趣旨

財団法人国土技術研究センター（JICE）は、昭和48年に設立以来、今年で37周年を迎えます。この間JICEは、高度な建設技術に関する調査研究機関として、社会の本来的要求である「安全で安心して暮らせる国土」、「人・もの・情報が効率的に通い合える国土」、「心豊かに暮らせる快適で美しい国土」の実現を目指して、調査・研究活動を行い、社会に貢献して参りました。

第24回となる技術研究発表会は、JICEの実施している社会資本整備に係る政策提言等、先進的研究内容や幅広い活動状況等を広く一般の方々に対して紹介する公益事業の一環として開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

特別講演

「橋梁のアセットマネジメントとレトロフィット」

東京工業大学教授 三木 千壽 氏

日時 平成22年(2010年)7月9日(金)
10:00~17:45

会場 日本消防会館(ニッショーホール)
東京都港区虎ノ門2-9-16
TEL.03-3503-1486

定員 500名

参加費 無料

●当日プログラム:ウラ面参照

●参加申し込み:

JICEのHP (<http://www.jice.or.jp/>) に参加申し込みがございますので、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

※多数のご来場が予想されますので、参加ご希望の方はお早めにWEBにてお申し込み下さい。

●問い合わせ先:

(財)国土技術研究センター情報・企画部

TEL03-4519-5006、FAX03-4519-5016

E-mail gijutu-happyoukai24@jice.or.jp

●その他:

本技術研究発表会は、土木学会認定の継続教育(CPD)プログラムに認定されています。



第24回 技術研究発表会 プログラム

■午前の部

10:00~10:05	挨拶	理事長 大石 久和
10:05~10:20	JICE事業概要	理事 藤本 保 JICEの事業概要について
10:20~11:45	特別講演	東京工業大学教授 三木 千壽氏 「橋梁のアセットマネージメントとレトロフィット」
11:45~13:00	昼食・休憩	

■午後の部

13:00~13:25 国際標準への対応のあり方について
設計施工の技術基準類は公共工事の品質確保に不可欠なインフラである。世界ではISO国際標準やユーロコードの本格運用が始まっているが、土木界の国際標準に対する関心は高いとはいえない。本発表では、土木界における国際標準対応の現状等の調査結果について報告するとともに、今後の対応のあり方に関して課題提起を行う。

13:25~13:50 PPPなど多様な事業実施方式について
「国土交通省成長戦略会議」においては「インフラ整備や維持管理への民間資金・ノウハウの活用の中で、PPP/PFIを推進するための制度面での改善」が重点項目として挙げられている。本発表では、これまで道路部門へ適用がなされていないPPP/PFIスキームの適用可能性について、韓国の事例を対象として報告する。

13:50~14:15 『国土教育』の視点から見た社会科教科書の検証と次世代教育論
現在我々が享受している豊かで安全な生活は、過去世代の国土に対する絶え間ない働きかけの果実である。従って我々世代も、先人達の努力について不断に学び、将来世代に対してより良い国土を引き継いでいかなければならない。本発表では、『国土教育』の視点から見た社会科教科書の検証を行うとともに、国土教育のあり方を展望する。

14:15~14:30 休 憩

14:30~14:55 小規模な道路等の構造基準に関する最小限保持すべき水準について
道路の構造基準は、安全性、円滑性の確保と同時に、様々な地域の実情に柔軟に対応できることが望まれる。本発表では、小規模な道路の縦断・平面線形の最小限保持すべき水準について、現地観測、理論的計算、走行実験、これらの組み合わせ等により検討した成果について報告する。

14:55~15:20 山地部幹線道路(甲子道路)の整備効果について
甲子峠を含む山地部幹線道路である甲子道路の開通は、交通途絶を余儀なくされていた地域に新たな連絡路をもたらした。本発表では、甲子道路が地域に与えた影響について、開通前、直後、一年後の定性・定量調査結果に基づき、交通量だけでは評価できない山地部幹線道路の整備効果について報告する。

15:20~15:45 安心して子育てができる環境整備のあり方について
少子化対策の一つとして、次世代を担う子どもを安心して育てることができ環境整備が求められている。本発表では、妊産婦や乳幼児連れに着目した外出時のニーズ・施設整備の現状や課題、乳幼児連れの外出の負荷軽減に資する整備の方向性及び施設整備のポイント等について報告する。

15:45~16:10 海外における都市再生財源の調達手法について
将来の都市象として打ち出されている「集約型都市構造」に向けた都市再生を財政状況が逼迫している中で進めるために、民間資金の活用や公民の連携等の方策が求められている。本発表では、諸外国の都市再生にかかる開発事例の収集分析により、我が国の事業に適用性のある施策や適用に向けた課題について報告する。

16:10~16:25 休 憩

16:25~16:50 水害リスクの評価指標及び評価手法について
治水施設や流域対策の整備手順ならびに土地の潜在的な脆弱性を評価するために用いる水害リスク指標とその算出方法について検討を行った成果、並びにリスク評価にあたって提案した流下能力並びに堤防構造を考慮した破堤地点の選定および氾濫特性を反映した評価手法について報告する。

16:50~17:15 ダム放流警報システム計画・設計指針(案)の見直しについて
ダム放流警報システムの見直しに関し、水理・水文資料やダムの運用管理実績の活用、河川利用形態に応じた放流警報のあり方等を検討するとともに、フィージビリティスタディによる検証を行った成果等について報告する。

17:15~17:40 河川管理における変状検知機器の活用について
洪水時の河川管理は、主に目視による河川巡視・施設点検の情報、水位情報等によるが、洪水時の河川は濁水となり目視での把握が難しい。水面下における施設変状の情報を検知する変状検知機器の洪水時の情報提供等における活用や河川管理への適用性評価、配置計画等について報告する。

17:40~17:45 閉 会

技術・調達政策グループ

道路政策グループ

都市・住宅地域政策グループ

河川政策グループ

- 発表者
- 芦田 義則 (審議役・総括)
- 山田 武正

- 福田 健 (上席主任研究員)

- 森田 康夫 (副総括)

- 丸山 大輔 (上席主任研究員)
- 和田 卓
- 岸田 真

- 梅津 健司 (上席主任研究員)
- 村田 重雄
- 平澤 哲
- 秋山 聡

- 鈴木 圭一 (主任研究員)

- 伊藤 伸一 (都市・地域チームリーダー)

- 田村 善昭 (主任研究員)

- 菊田 勇平 (主席研究員)

- 新井 勝明 (上席主任研究員)